

コード	303020103
記入日:	H22.6.10

事務事業途中評価表

課コード	110
課名	福祉長寿課
課長名	峯脇 泉
担当者	平尾好春

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	新上五島町シルバー人材活用事業
----------	-----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3		
施策コード	303	施策名称	お年寄りの元気を支える体制づくり	項コード	1		
基本事業コード	30302	基本事業名称	高齢者社会を支える環境づくり	目コード	3		
事務事業コード	3030201	事務事業名称	老人福祉総務費	細目コード	214		
関連計画	新上五島町老人保健福祉計画		法令・条例規則等	新上五島町補助金交付規則			

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	シルバー人材センター	(対象指標1) 1箇所					
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	シルバー人材センター設立のため、シルバー人材センターに補助金を交付した。 補助金額2,873,000円	① ***** 補助金交付団体数	1団体	100%	***** 補助交付団体数1団体 ÷申請数1団体	*****	平成21年度
		(達成率分析)	適正な内容の申請に対し補助を行った。				
		② *****			*****	*****	
		(達成率分析)					
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		① ***** 会員数	58人	100%	***** 会員数(58人)	*****	平成21年度
働く意欲をもっている健康な高齢者が生きがいとその能力を生かして、地域社会に貢献できるようシルバー人材センターを設立し、円滑な事業運営と安定した基盤ができるまで支援するものである。		(達成率分析)	設立当初年度であり58人からのスタートとなった。				
		② *****			*****	*****	
		(達成率分析)					

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 団体数	1	1	0	1	1					
	②										
成果指標	① 会員数	58	58	0	58	58					
	②										
総事業費C (A+B)	千円	2,873	2,873		2,873	2,873					
直接事業費 A	千円	2,873	2,873		2,873	2,873					
人件費 B	千円										
内訳	従事職員数	人									
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	2,873	2,873		2,873	2,873					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町として老人活動の拠点として活動する団体へ助成必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	高齢社会での事業を展開していく団体として必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	高齢者を対象とした事業をすすめていく団体として適切。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	活発に活動しており地域活動への参加も積極的。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	今後の高齢化社会へ対応した新たな取り組みを持たせていく。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	地域に根ざした老人会活動の拠点が失われる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似団体はない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	できるが、実施事業の活性化に影響する。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	人件費は予算化してない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	事業活動が軌道に乗れば補助も減額できる。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	老人活動の拠点としてまた、高齢社会の状況において必要である。
		有効性	地域に根ざした団体の代表として貢献しており、今後も地域の事業に参加していく団体なのでその成果が期待される
		効率性	補助については事業運営を見ながら検討する。
	課題に向けた改善策	特になし	
	2次評価	妥当性	高齢者の活動の場として安定した運営が成るまでは支援を行う。
有効性		働く意欲のある高齢者の生きがい対策、社会貢献活動として支援していく。またセンターの活用を広く周知し、活用幅を広めるとともに会員の増を図ればより高い効果が見込める。	
効率性		補助の交付基準に従い適正に執行すること。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。